

〇一 首略
 梳毛見自屋中尾波可自久左麻久良多婢由久伎美乎伊波布等毛比氏未詳

右伴歌傳誦大伴宿禰村上同清繼等是也

〔古今和歌集八離別〕さだときのみこの家にてふちはらのきよふが、あふみのすけにまかりける時

に、むまのはなむけしけるよ、める、

きのとしさだ

けふわかれあすはあふみと思へどもよやふけぬらん袖の露けき〇中

人のむまのはなむけにてよめる

きのつらゆき

おしむから戀しき物を白雲の立なん後はなに心ちせん

〔後撰和歌集十九離別〕とをくまかりける人に、餞し侍ける所にて、

橘直幹

おもひやる心ばかりはさはらじをなにへだつらん峯の白雲

〔拾遺和歌集六別〕天曆の御時、小貳命婦、豊前にまかり侍ける時、大ばん所にて餞せさせ給に、かづけ

物たまふとて、

御製〇村

なつ衣たちわかるべきこよひこそひとへにおしき思ひそひぬれ

〔大鏡五太政大臣伊尹〕すけのぶの少將、うさの使にてた、れしに、殿上にて餞に、菊の花のうつろひ

たるを題にて、別の歌よませ給へる、

さはとをくうつろひぬとかきくのははおりて見だにあかぬこゝろを

〔續日本紀二十三〕天平寶字三年正月甲午、大保藤原惠美朝臣押勝、宴蕃客於田村第、勅賜内裏女樂、

并綿一万屯、當代文士賦詩。送別副使揚泰師、作詩和之、

〔菅家文章一詩〕會安秀才餞舍兄防州探得

兄友弟恭不道無勤、王自與恒親疎、一廻告別腸千斷、我助君情獨向隅、